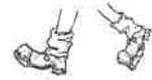


## 研修に燃える先生たち、新たな教室の開校も応援して



昨年7月3日に首都ダッカに駐在する日本人7人が殺害され、渡航自粛となっていました。私も延期した現地訪問を今年の2月に果たしてきました。滞在期間は短い方が私も安全ですし、現地側にも外国人受け入れの気遣いが少ないということで、先生達にはシャバール校に集合してもらい、リフレッシュ・コースということで4日間の全体研修会を持ちました。

私からの指導に加え、先生達で意見交換・発表をして問題解決する時間、シャバール校の授業見学、そしてシャバールにある独立記念塔見学にも出かけました。私にとっても独立記念塔は1994年以來の訪問で、忘れられない思い出となりました。集った学校は5校でした。が、正確に表現するとこれまでの主たる4校に加え、準備中の聾話教室が一つでした。

クムアカリで自宅を提供して聾話教室をしてきていたニガール先生が、隣り

の大きい町クスティア (Kustia) に引っ越しをし、再び聾話教室を開こうか、と準備しているところだったので。話しは研修の内容に戻りますが、バングラデシュの方々是人前で発表する度胸は日本人よりある、といつも感心させられています。今回も、5校とは言え仲間同士の意見交換を活発にしてもらいたい思いもあり、私にとって代わって実践や実演発表の機会を5人の先生方にお願ひし、積極的に担当していただきました。支援品の日本の算数セットも堂々と使って説明されたり、普段から活用してくれている様子がよく分かりました。また逆に算数を教える時に理屈を口で説明する限界を感じていることも痛感しました。算数セットはバングラデシュでも有り難い教材です。授業見学は圧倒的にトゥリ先生のクラスに集中しました。振り返ると、私の撮影したビデオを通して何度も観て来たトゥリ先生の授業を現場で観る機会はこれが初めてでした。先生達が長年、彼女の授業展開を一目置いて見ていたことが分かりました。子どもたちは大勢の見学者がいても気が散ることなく楽しそうに授業に集中しており、トゥリ先生の実力をたっぷりと見せてもらいました。そして、今回、ヒヤリングセンターの当番で研修に参加できない先生のためにスマホで動画を撮る先生の姿もあり、物が豊かになっていく時代の変化を感じました。

独立記念公園の研修参加者集合写真。



荒井先生

さて、私が訪問すると必ず難問の解決を、というリクエストがあります。今回は、先に挙げたクスティアに新たに教室を開くかどうか、という相談でした。地方都市とはいえ、クスティアの1軒の耳鼻科医は聴力測定をし、補聴器販売もして



登校するとまず補聴器をチェックしてもらいます。

いるそうです。ワールド・コンサーン・バングラデシュと繋がって来たニガール先生の住まいと耳鼻科は近い、ということで患者の中から生徒候補の子どもを紹介してもらえらるだろうし、近隣の町からの交通の要所でもあるので他の町からも生徒は通ってくるのではないかと、ということでニガール先生は控えめでしたがやる気満々でした。ただ問題は、生徒の授業料だけでは家賃、人件費、教材費などには不十分ですし、ワールド・コンサーンには主たる4校のために既に他の事業から資金を回してくれているので、これ以上の財源はない、というのが悩みで私に相談された、という訳です。いう訳です。

お金の無い事業では、お金持ちの子どもしか受け入れてあげられず、それも心痛むことです。私は子どもたちのためにやれることは何でもやってあげたい、とってしまうたちなので、うっかり「はい」シャバール校の生徒と親と安請け合いしないようにしつつも、月1万円位の事ならなんとかしてあげたいなあ、と思い、「日本の皆さんに伝えます」と返事をして帰って来ました。

子どもが補聴器を着けて教育を受けると人生が変わることは確かです。研修を受けてパワーアップしたニガール先生の熱意になんとか応えることができれば、と小さなバトンをミーナ友の会の皆さんにも差し向けさせていただき、今回の報告を終わります。

クスティア校ニガール先生



Id Concern Bangladesh Hearing Program  
Training of Hearing School Teacher  
ator: Mrs. Nigal, Japan.  
Date: 9-1  
: Annika.

